

写

提 言 書

平成25年3月

勝 浦 市 市 民 会 議

勝浦市長 猿田寿男 様

私たち市民会議委員18名は、市の求めに応じ、平成25年1月に市民会議を立ち上げ、次のことについて審議してきました。

○ 勝浦市保育所等の再編について

今回の審議において、子育て関連施策は、最も優先して取り組んでいただく課題の一つであるという視点に立ちつつ、施設整備などのハード面のみでなく、子どもの育ちを踏まえた施策の展開が必要であると改めて認識しました。

市におかれましても、委員の気持ちをご理解いただき、次代を担う子ども達は地域の宝であることを踏まえ、子ども達の笑顔があふれる、より良いまちづくりに向け、積極的に取り組まれることを期待して、提言します。

平成25年3月29日

勝浦市市民会議

座長

高橋 琢

提 言

1 勝浦市保育所等の再編について

中央保育所の整備に当たり、認定子ども園として整備することについては、先進地の事例等を踏まえ、一定の理解が得られたものの、幼稚園部について疑義ある旨の意見があった。

また、保育所の再編については、保育所のマンモス化は好ましくなく、高台に位置する中央保育所、上野保育所、総野保育所での保育実施が適切との意見が大勢を占めたほか、再編にあわせ、職員の配置、保育時間の延長、休日保育の実施など、保育の充実を求める意見が多くあった。なお、主な意見は下記のとおり。

記

(1) 認定子ども園について

- 認定子ども園という環境の中で、現在行われている幼稚園での児童の成長を教諭と保護者とが一緒につくっていくという方針を達成できるのか、疑問がある。
よって、幼稚園での単独運営を希望する。
- 保育所、幼稚園、それぞれの良いところを伸ばす方向で考えるべきであり、子どもの減少をもって子ども園等を論ずるべきでない。
また、市は、人口の増加、子どもの増加に係る施策展開を踏まえ、将来展望に立つべき。
- 日本一の教育を目指すとして設置された、認定子ども園の先進地事例においては、行政、保護者の意見の相違が既に出ている。
- 市の方針が認定子ども園の設置であるならば、勝浦市においては選択肢がないため、認定子ども園の他に幼稚園が存在しても良いのではないか。
- 子ども達との係わりは、保育所、幼稚園ともに相違はなく、どのように子ども達を温かく見守り、成長させていくかである。
- 子ども園に係る先進地事例においても、対応に時間を要したのは子ども達でなく、保護者であったとのこと。
- 再編等に当たっては、子どもの人数などの数値のみでなく、子どもの育ちを基本に考えていくべき。
- 子ども的人数などの数値のみで対応すべきでないと考えるが、集団生活が成り立たない場合も考えないといけない。

- 津波への対策として、海岸付近施設での保育の実施を断念し、高台における施設での保育の実施の方針に沿った理由としては、現実として市の予算の問題が大きかった。幼稚園についても、市としてどのように考えているのかが大事なのではないか。
- 市の財政を考慮すると、集約もやむを得ないものとする。
- 子ども園になった時の具体的な支援内容や利用方法、市のサービスなどについて、掘り下げて検討し合える協議組織の設置を望む。
- 「子ども課」を設けるなど、子どもに関する一体的な支援が行えるような、一貫した体制づくりを望む。
- 幼稚園が編成に含まれるならば、保育所・幼稚園の保護者、職員、幼児教育の専門家を含めた、子育て世代を中心に開かれた検討委員会を設立し、十分な議論が必要。

(2) 保育所の再編について

- 各地区1施設が理想であるが、現実的対応として、中央保育所、上野保育所、総野保育所での保育実施が適切
- 再編に当たっては、再編に併せた職員の配置、通園方法などの適切な対応が不可欠
- 保育所の跡地は公園とするなど、有効活用を望む。